

運動は相変わらず好きではないですけど、
仙台に住むようになって、
街中を歩くことが楽しくなりました。

Special
Interview
in
仙台

MACHI TAWARA

俵 万智

1962年、大阪生まれ。1987年、第一歌集「サラダ記念日」を出版し、大ベストセラーに。主な歌集に「かぜのてのひら」「チョコレート革命」などがある。「プーさんの鼻」で第11回若山牧水賞を受賞。この春、3冊の新刊を発売。「俵万智の子育て歌集 たんぼほの日々」(小学館・刊 1680円)、「ちいさな言葉」(岩波書店・刊 1,575円)、「俵万智×一青窈 短歌の作り方、教えてください」(角川学芸出版・刊 1,500円)。現在、仙台に在住である。

撮影：藤田政明

いま、仙台に住んでいます。この秋で4年になりますね。きっかけは子供の幼稚園でした。私は東京の真ん中に住んでいたのですが、幼稚園を回ってみると、土の園庭がないんです。園庭そのものがなくて、近くの公園を使っていたり、あってもゴムを張っていたり。土だと土埃が立つので近所から苦情が出るので、難しいようです。仙台は親戚も多く住んでいる街で、私も小さい頃からなじみのある街です。仙台の幼稚園は、園庭があって、校舎があって、トイレが広くて。これだ、と思って、入園のタイミングですぐに引っ越ししました。

仙台は都市ではあるんですけど、自然がいっぱいあってその自然が本物だと感じられます。広瀬川のそばを歩いていたら、懐かしい匂いがしたんです。あ、林間学校の匂いだ、って思いました。本物の川や木々の匂いですよね。

いちばん変わったのは食生活ですね。魚をよく食べるようになりました。こちらは海の幸が多いし、リーズナブルです。魚は調理するのが面倒なので、お肉料理が多かったです。ですが、仙台のお魚屋さんの面倒見がすごくよくて、おろしてくれたり、皮をむい

子供と魚を食べたり、プールに行ったり、
早寝早起きになって、生活が変わりました。



てくれたり、焼くだけでいいようにしてくれて。一匹98円とかなのに、そこまでしてくれる。嬉しいですよ。そうなると、秋なんか毎日、さんま、みたいになります(笑)。子供も青魚をベロっと一匹食べちゃいますからね。魚を食べるようになって、身体の調子もよくなった気がしています。

と歩くのが苦にならない。方向音痴なので、東京ではよく道に迷ってましたが、仙台は通りがはっきりしているの迷わないんですね。並木道もきれいですし歩いていても楽しいですね。それに小さなかわいいお店もあって、常に発見があるんです。

にはそれがなくて。運動神経が鈍かったから、小学校の運動会とか憂鬱で仕方なかった。リレーとか本当に嫌いで、私がいるチームが必ずビリになるので(笑)。それが、こちらに来てよく歩くようになりました。また子供とサッカーの真似事をしてみたり、子供がプール好きなので、一日中、流れるプールに入っていたりとかで、生簀の魚の気持ちがわかりました(笑)。結果として、子供と遊ぶこ

とで、以前より身体を動かしていますね。そう目下の悩みは、私が自転車に乗れないのに、どうやって自転車の乗り方を教えるかということ。結果として、少しは以前より身体を動かすようになったということですかね。

子供ができていちばん変わったことは早寝早起きになったことです。以前は「笑っていいとも！」見ながら、朝ごはんを食べてましたが、いまは子供を幼稚園に送り出すために6時半に起きてます。最初は苦だったけど、やればできるんだ、と思いましたね。体調はいいですね。おかげさまで午前中に仕事ができるようになりました。それまでは朝昼兼用の食事をしてから夕方までが執筆でしたが、いまはその時間を子供とのことにあてられるようになりました。

子供って、本当に面白い。白紙で生まれてきて、言葉を覚えていくまでの過程を記録していききました。そして、この春、子供のことを書いた本を2冊出すことができます。一青窈さんとの本を併せると3冊。一年に1冊出すか出さないかの人が、こんなこと初めてなんです。仙台に来た成果が出てるんでしょうかね。これからも子供を見つめながらがんばります。